



前列左から
 <学生> 橋田 吉郎さん (タイ)
 <学生> 林 開会さん (中国)
 <学生> 龍 薇さん (中国)
 後列左から
 <チューター> 坂田 和子さん
 <学生> ツイ チンパンさん (シンガポール)
 <学生> シュレスタ シャムさん (ネパール)
 <チューター> 小嶋 英教さん
 <教員> 中居 うららさん

座談会

大阪YMCA学院日本語学科に通う学生とボランティアチューターの方々にお集まりいただきお話を伺いました。

大阪YMCA学院日本語学科の学生とボランティアチューター

○日本語学校で学ぶ学生たちのバックグラウンドは本当に様々です。

シャムさん：僕はネパールに居る時にインターネットを通じて現在の妻と知り合い、メールや電話で交流をしていました。5年後に結婚・来日し、昨年からここに通っています。

龍さん：私は母と共に日本にやってきました。それまでは日本語を学んだこともありませんでした。

林さん：大学卒業後、父の友人の進めで日本にやってきました。

ジラパンさん：留学先で現在の夫と出会い、結婚し来日しました。

チンパンさん：母国で自営業をしている母を手伝っていたのですが、母の進めで留学を決意しました。イギリス、アメリカ、日本の三カ国で検討し、一番好きな日本を選びました。

○お話を伺った学生のほとんどは日本語を学んで2年も経たない方なのですが、日本語での意志の疎通はほぼ完璧です。言葉の壁以外に文化の壁がありましたか？

シャムさん：最初、手で食事をすることに他の学生に驚かれました。

坂田さん：日頃学生さんのお話を聞いてみると、やはり食文化の違いは大きいよう

に思います。

龍さん：ジラパンさんと食事に行った時に、オレンジジュースに塩を混ぜたのは驚きました。

ジラパンさん：甘味と酸味にうつつすらと塩味が入りいアクセントになるんです。国によって習慣や考え方が違うとは思いますが、人間一人ひとり違うものだと私は思います。

○日本に来て、日本語学校で学んで、何か自分の中で変化がありましたか？

林さん：生活の変化が一番大きいと思います。将来は、日本語を使い中国で仕事をしたいと思っています。しつかりと自分の意見をもった、父のような人になるのが夢です。

龍さん：日本に来なければアルバイトをすることもなかったと思います。学校以外の場所でも人と接すると、文化など色々なことを学べます。

シャムさん：今は時間に追われる生活をしているなと思います。日本語を習得し、いつか家族と共にネパールに戻り、仕事をしたいです。

ジラパンさん：より人の話を聞くようになったと思います。母国語では相手の話したい内容がすぐわかるので自分の意見を話の途中で言ったりすることもありました。日本語だとじつ

くり最後まで相手の言葉を聞くようになりました。とても大事なことだと思っています。

チンパンさん：日本に来て自炊をするようになりました。もつと自立したいなと思います。

○将来の夢を持ち、勉強に励む学生たち。その学生と日本語を通して交流を図る「チューター制度」があります。

坂田さん：チューター活動は、日本に居ながら外国の風を感じられることが楽しみの一つです。

小嶋さん：世代を超えた交流ができるのがいいと思います。YMCAで学ぶ学生は、目的を持ち勉学に真摯に向かっているのので、接しているだけでも気持ちがいいです。日本の青年たちにもこの学生のような青年に出会ってほしいと思います。

中居先生：国際社会の中でいかに生きていくのか、卒業式では肩を抱き合せて別れを惜しんでいるんです。国ではなく、人のつながりがここにはあります。色んな学生がいるので、チューターとの相性も様々ですが、チューターの方には心を開いて何でも相談するというケースもあります。

坂田さん：YMCAがチューターを信頼して任せてくれているというのがうれしいです。学生さんは定

期券一つ買うにしても苦勞しています。外国の人だから無理とは思わないで、気軽にチューター活動をしてほしいです。ここは、ボランティアをしていても心地良いなと思える環境です。これからもできるだけ関わっていきたく思います。

※ ボランティアチューター
 YMCA日本語学校の学生の話し相手をするボランティア。授業以外での自由会話の機会を増やすため、週に1度(1時間程度)ボランティアの方と日本語学習者が日本語で会話を楽しみます。日本語を教えるのではなく、文化や習慣など自由な話題で、会話を通して交友関係が生まれています。
 <問合せ>
 大阪YMCA学院日本語学科(谷町九丁目) TEL 06 (6779) 8364
 大阪YMCA国際専門学校日本学科(土佐堀) TEL 06 (6441) 9068

YMCAサンホームでのボランティア体験

大阪YMCA国際専門学校日本語学科の学生2名が、夏休みの期間を利用して、特別養護老人ホーム「YMCAサンホーム」でボランティア体験をしました。

私は日本に親戚が住んでいるので、子どもの時からよく日本に来ました。それでだんだん日本の文化が好きになって、日本の大学に入るために留学を決めました。そして今年の4月にYMCA国際専門学校学校の日本語学科に入学しました。

ある日、同じクラスの友だちと日本へ来る前にボランティアをした経験話を話しました。もうすぐ夏休みだから日本でもボランティア活動してみたい、担任の先生に相談する

私が出会ったおばあさんは、私が家に帰るたびに、手をぐつとぎつて、「この次はいつ来るの?」と聞きました。そのたびに韓国にいる私のおばあさんを出して、「おじいさん、おばあさんに一番必要なことは、愛情がこもった話と関心だ」と思いました。

秋休みになったらまた行くつもりです。学校で習った新しい言葉を使って、夏休みには話せなかったことを話すつもりです。それまで頑張ります!

金松瀬

私は日本へ来て4年に縁を結ぶことになりました。初めてサンホームに行ったとき、私は何を手伝え、何をしたらいいかわかりませんでした。私は学生の時、韓国の孤児院でボランティアをしたことがありますが、老人ホームは初めてでした。私は日本の福祉がすぐれていることは知っていますが、施設も整っているのを見て驚きました。落ち着くし、住みやすいし、便利なんです。

私はそこへおじいさんやおばあさんたちと話しました。週に2回行きましたが、夏休みの期間が短く感じました。大変楽しかったです。また秋休みも行く予定です。おじいさん、おばあさん、待っていてください。

林 宣希